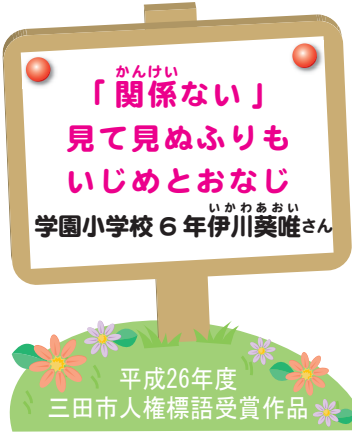


NO.431

平成 26 年度
三田市人権ポスター入賞作品



人権さんだ



寺西健斗さん
狭間小学校 5 年

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝まちづくり部人権推進課
(559-5081-5148 FAX 563-3611 e メールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

「なまえをかいた」

識字率から見る部落差別

2012年、学校からの帰宅途中に銃撃された、パキスタンのマララ・ユスフザイさんは、子どもや女性への教育の普及に取り組んだことが評価され、史上最年少の17歳でノーベル平和賞を受賞しました。文字の読み書きができないことを「非識字」といい、逆に15歳以上で読み書きができる率を「識字率」といいます。日本の識字率は99.8%（注1）で、現代社会において最も基本的な教養のひとつとされ、先進国の証であることを示しています。では、この日本の識字率の残り0.2%はどのような人たちなのでしょう。

（注1）2002年ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）調査 15歳以上、母国語対象 日本は識字率は100%に近い。近年は調査が行われていません。

「夕やけがうつくしい」

ちたしはうおびんぼうでめつたので
がッコラへいってあります。
だかりじまをせよせりませんでした。
いましきもがっさりやでてまよらして
かなはだいたいおぼえまじか
いままでおしりや、いってをうけついで
なまをまかいてもらってましたためし
に、おまさんが北代さん、とどんでくたの
大へんうれしかった。
夕やけを見てもあまりうつくしい
思はなかつたけれどおぼえて
ほんとうにうつくしいと思っています。
なりました、おぼえをあるいておぼえて
かんぱんにまなつていてな、わつた
りを見つくと、大へんうれしく思います。
うらやまおぼえたので、おぼえをまよら
す、うらやまおぼえたので、おぼえをまよ
らす、うらやまおぼえたので、おぼえをまよ

またリト、かんへ行ってもへやのぼん
ごうを おぼえの、はりまかかなく
なりました、かんぱんばつて
まよらした、おぼえをまよらして
十年なけいもした、うらやまおぼえ
四十八年二月十八日
北代色

▲ 元高知県県会議員 森田益子さんに宛てた北代さんの手紙



上記の手紙は、北代色さんが70歳ではじめて書いた手紙です。還暦を過ぎてから識字学級で文字を習い覚え、夕やけを見て心から美しいと感動したことを綴っています。なぜ北代さんは高齢になるまで字を習い覚えることができなかったのでしょうか。識字学級では、多くの人が高齢になつてから字を学んでいます。その背景には、戦争の影響もありましたが、それ以前に家が貧しく幼い頃から働くことを余儀なくされ、教育を受けられなかった事情があります。また厳しい差別を受け、学校でいじめられて勉強をあきらめざるを得なかった人たちもいます。

平成25年度の「人権を考える市民のつどい」では、部落解放同盟改進黨支部（京都市）女性部の皆さんによる「竹田の子守唄」の元歌が披露されました。それは、差別の厳しさと生活の貧しさのなかで、家計を助けるために学校に行けず、子守り仕事をしてきた子どもたちによって歌い継がれた「子守歌」つまりは労働歌だったのです。



差別や貧困は、親から子どもたちへと連鎖します。親が文字を読み書きできない場合、子どもたちに宿題を教えたり、学校からの通知文を理解することができません。子どもは子どもなりに親をかばい、先生に対して「忘れました」と弁解するようになり、先生にそのことを指導されるのが日常的になります。「教育に不熱心な親」とか「勉強嫌い」でかたづけられた場合もあつたでしょう。そんな中で、子どもたちは辛く悲しい思いをしたり、学校に行きにくくなったりしていったのです。この連鎖が社会問題となつていきました。

しかし、九州の福岡では学校の先生たちがこの状況を打開すべく、現在でいう同和教育研究協議会を立ち上げ、差別や貧困を理由に学ぶ権利を奪われた人々を対象に、識字学級を開きました。この識字学級は、高度成長期の被差別地区における「識字運動」が始まりです。「部落差別によって奪われた文字を奪いかえす」ことをスローガンとして、今なお解決しきれない差別をなくすとともに、社会の一員としての役割を果たすことを目標に、全国的な広がりをみせました。

次の作文は、当時識字学級で学んでいた「まさよ」さんが、先生から「子どものころ、母となつたとき、現在の生活を書いてみましょう」と言われ、書いた作文です。

先生はけちい、わだしたちになつた字を50しか教えておらんのに、これだけウンと書けちゆうたら書けようことあるか

福岡県人権・同和教育研究協議会より資料提供